



ミュージアムコラム

武庫川女子大学附属総合ミュージアムでは、所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」全 9,092 点から季節の主題に沿う資料を選び、一年を通じて学術研究交流館（IR 館）1 階ロビーにて展示をおこなっています。

2025年度 冬季企画

人、馬に騎る

2026年1月16日(金)～3月13日(金)

本年は午年です。人間と馬との関わりは古く、馬は紀元前 4000 年頃に荷物運搬用として家畜化され、紀元前 2000 年頃のオリエントにおいて騎馬の習慣が始まりました。馬は四肢が長いので歩幅も大きく、頸が長いので重心を前に移動させやすい体の構造をしており、さらに背中を丸めずに走ることができるため、騎乗に適した動物でもあります。日本には古墳時代に大陸から伝わり、主に軍馬や貴人が移動する際に利用されたと言われていています。

今回の企画では、「馬」と「人」との関わりに焦点を当て、エキゾチックな雰囲気をもつ狩猟文の羽織や帯、男児に人気を博した武者絵や合戦図（歴史画）の着物図案や裂地、騎馬を武芸として発展させた馬術に関する資料を展示しています。また、阪神（鳴尾）競馬場の往時を偲ぶ写真もパネルで出陳しております。ぜひご観覧ください。（平）



登録有形民俗文化財

1. 鶯色地狩猟文羽織

昭和期

女性用の羽織で、1940 年頃まで愛用されていたことが伝わっている。烏帽子を被り、西域風の筒袖の欠袴長袍を着用した男性が、馬上で狩りに興じる姿を表わす。

登録有形民俗文化財

2. 赤金襴地狩猟連珠文袋帯

昭和期

正倉院所蔵の錦裂に表される狩猟連珠文を赤金襴で織り出した、華やかで格調高い雰囲気の袋帯。少々うつしくずれが見られるが、主文は葡萄唐草・連珠円輪内に騎馬狩猟文、副文は獅子と鳥を配した唐草文となっている。

このような上代裂の意匠は人気があり、昭和以降にきもののデザインとして取り入れられている。

3. 騎馬武者図案

＊昭和期＊

丸紋に甲冑姿の騎馬武者を描く。下方の武士は黒地に日の丸の扇子を持つが、これは陸奥相馬氏の旗の文様にもある。

相馬氏は、「平将門」を祖先に持つが、将門が馬を敵兵に見立てて軍事訓練を始めたことにちなみ、福島県南相馬市の夏の伝統行事である「相馬野馬追」では、総大将がその旗を掲げて駆ける。



4. モスリン地源平合戦図 (富士川の戦い) 裂

＊昭和戦前期＊

富士山を背に、甲斐源氏・武田信義軍が平氏を撃たんと、富士川の浅瀬に馬を乗り入れたところ、それに驚いた水鳥が一斉に飛び立ったという、治承4年(1180)の「富士川の戦い」の逸話を表わしている。

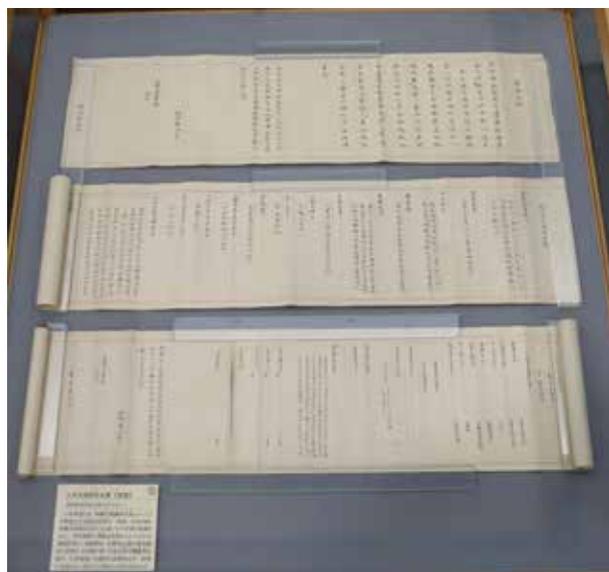
水鳥の羽音を、源氏の大軍の奇襲と勘違いして敗走した平氏の姿は見られない。

5. 大坪本流馭馬系傳【複製】

＊(昭和期(原図は文政元年(1804)))*

大坪本流とは、齊藤主税藤原定易(1657-1744)を開祖とする和流馬術の一流派。定易は師・齊藤求馬助辰光から伝承した大坪流の奥義をもとに、李氏朝鮮の乗馭法を取り入れてそれを発展させた。

本資料は、天照皇太神の乗馬録から始まり、大坪流の祖・大坪式部大輔慶秀を経て、大坪本流へと連なる系譜を記す。系図の末尾には、差出人と受取人の名が見られる。



6. 阪神(鳴尾)競馬場写真

＊昭和期＊



阪神電車の開通後、西宮の沿線開発は進み、明治41年(1908)に鳴尾川左岸に鳴尾競馬場の前身・関西競馬場が建設された。明治43年(1910)に競馬場の統廃合が進み、鳴尾競馬場と改称され、昭和10年(1935)に阪神競馬場として新スタンドが竣工した。

この写真は、昭和12年(1937)の秋季競馬の告知ポスターである。その後、昭和18年(1943)に海軍に譲渡され、鳴尾飛行場として利用された。戦後はGHQへの接收を経て、昭和35年(1960)、武庫川女子大学へ払い下げられた。現在、この敷地の一部に附属中学校・高等学校の芸術館が建てられている。

次回の展示は、2026年4月頃を予定しています。